

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 21 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320042

研究課題名(和文) 大学における「アート・リソース」の活用に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Research on Utilization of Art Resources in University Campus

研究代表者

五十殿 利治 (OMUKA, Toshiharu)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：60177300

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円、(間接経費) 3,870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、大学ミュージアムだけに依拠しない形で、大学におけるアート・リソース、すなわち教育研究資源としての美術作品を、キャンパス内の施設において活用する方策を研究することを目指した。筑波大学、名古屋大学、九州大学に拠点を置き、三年間を通じて積極的に研究会や国際シンポジウムを開催し、研究交流を密にした結果、上記三大学を含めて各大学の教育研究環境の相異が明白となる一方で、そうした差異を超えて他の事例に学ぶことが多く、そこに連携の可能性があることが判明した。

研究成果の概要(英文)：In this research our aim is to examine ways in which art resources, i.e. art works as resources for education and research, can be utilized in campus, independent from university museums. We made three research groups in University of Tsukuba, University of Nagoya, Kyushu University and held various research sessions and international symposiums to exchange views on utilization of art resources in campus. As a result, we found that differences of educational and research environment among universities including the above three are so wide and diverse but that beyond those differences there is a good possibility to learn much from other and therefore cooperate with each other.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：アート・リソース 大学 国際研究者交流

### 1. 研究開始当初の背景

芸術系の専門的な教育組織のある大学は別として、一般に総合大学において美術作品は展示される機会が少ない。しかし、このことは大学に美術作品が所蔵されていないことを意味しない。大学構内の諸施設に飾られている絵画や彫刻等は少なくない。これに加え、いわゆるコンテンツ等を含めて、学内に蓄積されている教育研究資源、そして学外からも導入可能な資源を、「アート・リソース」として位置づけ、これを教育研究、さらに社会貢献に活かす方策について基礎的研究を行うのが本研究の目的である。

大学のミュージアムは日本においても海外諸国においても活発に活動し、その位置づけについて調査研究が進められているが、本研究が目指すのは、大学博物館のような安定的な保存管理施設だけではなく、そのような施設が十分に整っていないキャンパスでも、どのようにして学生や教職員、さらに地域社会に対して、教育研究の一環として、「アート」の普及を図るかというより一般的課題である。

本研究の起点は日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究「日本の文化政策とミュージアムの未来」における「ミュージアムの活用と未来 鑑賞行動の脱領域的研究」(H16-H19年、研究代表者五十殿利治)において、美術系ミュージアムを研究対象としたグループによる研究活動である。同研究では、鑑賞行動をテーマとして、受容者の史的研究、携帯情報端末の利用法、視覚障害者向けの展示の在り方等、多様な視点を設定して課題に迫り、最終年度に筑波大学総合交流会館にて研究成果の概要を公表する展覧会を企画した。

同プロジェクト終了後、研究代表者を中心にして筑波大学研究戦略イニシアティブに応募し、「A.R.T.(Art Resources in Tsukuba)の構築 筑波大学におけるアート・リソースの戦略的ディスプレイと活用」(H20年～H22年、研究代表者五十殿利治)が採択された。そのねらいは、学内の中小規模の施設において美術関連コレクション等を「アート・リソース」として活用し、戦略的なディスプレイを具体化し、地域貢献とともに、研究教育での効率的運用を図ることである。そのため「A.R.T.の構築」においては芸術組織内を横断して研究拠点を拡充し、大学 Website のトップページに「筑波アート A.R.T.」<http://www.art.tsukuba.ac.jp/>を立ち上げ、大学関係の美術関連情報を一元的に示すことで、情報発信されず死蔵されがちな資料あるいは学内外の教育研究活動の内容を利用しやすい「リソース」として提示することを目指した。バナーは現在でも美術情報欄として機能している。

「A.R.T.の構築」の研究活動は、学内の野外美術作品の紹介(アート・ツアー)から寄贈品コレクションの特別展示まで多岐にわ

たり実施されたが、各年度末に活動評価のための外部委員による講評会を行った。

本研究の研究分担者後小路雅弘は2年続けて講評会に参加し、プロジェクトの評価を行うとともに、2010年3月開催の講評会後の研究会で、九州大学の美術展示、とくにアジア美術に関するAQAプロジェクト(「九州大学アジア美術プロジェクト」Project for Asian Art of Q-Dai Kyushu University)の活動について報告を行った。また、同じく研究分担者の茂登山清文は名古屋大学におけるプロジェクトギャラリー「clas」の活動について述べた。それぞれの活動は学内外に向けて、九州大学 AQA プロジェクトは<http://aqa.aikotoba.jp/index.html>、名古屋大学プロジェクトギャラリー「clas」は、<http://www.vision.ss.is.nagoya-u.ac.jp/clas/> )において公開されている。

### 2. 研究の目的

一般に大学には多様な教育研究資源の蓄積があるが、美術に関係する「アート・リソース」も活用すべき資源として見逃せない。現在多数の大学にミュージアム(美術館博物館)が設置されているが、本研究では、より柔軟に、大学ミュージアムのような施設以外でも「アート・リソース」を展示・公開し、また情報発信し、教育研究のみならず、大学の社会貢献に活用する方策を調査研究するものである。

実施にあたっては、これまで実績のある研究グループが共同研究のためのプラットフォームを構築するとともに、各大学の置かれた状況の相違を織りこむことで、より一般性のある研究成果を達成することを目指す。

さらには、大学としての美術に関わる方針、つまり「アート・ポリシー」策定への提言にもつながるように努めるものである。

### 3. 研究の方法

- ・大学において活用可能な教育研究資源として「アート・リソース」の概念について明確化し、大学の教育研究のみならず、広く社会貢献に資するべく、調査研究を進める。
- ・「アート・リソース」活用の研究活動についての Website を開設し、社会への発信力を強化する。
- ・拠点ごと(3班による研究体制)に明確な研究目標を設定しつつ、拠点間の緊密な交流と密接な連携を通じて、共同研究としての成果を深める。
- ・芸術系学部・大学院の有無、大学ミュージアムの有無など、各拠点が置かれた状況に即して柔軟な研究活動を行いつつ、その事例が当該大学にのみ妥当するような閉鎖性を回避する。
- ・国際研究集会を毎年度開催することにより、先進的な事例に学んで、国際的な動向にも対応するような研究成果を達成することを目指す。

#### 4. 研究成果

(1)「アート・リソース」という概念の明確化については、全研究活動期間において、研究代表者、研究分担者はもとより連携研究者が正面から取り組んだ。その結果、基礎的研究という性格にあわせて、アート・リソース概念の共通理解にむけて前進することができた。

(2)研究成果の発信については学会発表等のみならず、とくに公開の研究会の場を設けることを意図した。そのため以下に示すように国際シンポジウム等を積極的に開催し、多様な観点から「アート・リソース」の活用について検討を行い、その結果を公刊するなどして、国内外に向けて「アート・リソース」と大学における美術品のあり方についての議論を展開した。

(3)本研究の最終的な共同研究の成果として報告書「平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 大学における「アート・リソース」の活用に関する基礎的研究」(総51頁)を、研究代表者、研究分担者、連携研究者、海外連携研究者の寄稿を集めて公刊した。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

三島美佐子、催事・展示クローズアップ「九州大学総合研究博物館特別企画」、九州大学総合研究博物館ニュース、19、2013、1-2、査読無

坂倉真衣、三島美佐子、飛松省三、研究者の「子ども時代」に焦点を当てた展示の有効性、科学技術コミュニケーション、12、2012、75-91、査読有

Jieun Seong, Kiyofumi Motoyama, A study on Appreciation from the Informatics Point of View through Experiments at Gifu Museum, Fourth International Conference on The Inclusive Museum, 2011, 4, 18-19、査読有

[学会発表](計6件)

Rintaro Terakado and Toshiharu Omuka, Utilization of art resources without university museum: University of Tsukuba Example, 2013 International Colloquium "Positioning Academic Heritage. Challenges for Universities, Museums and Society in the 21st Century", November 19, 2013, Ghent University, Belgium

五十殿利治、寺門臨太郎、総合大学における美術展示「アート・ポリシー、筑波アート、アート・ストリート」、第8回博物科学会、2013年5月31日、宮崎大学(宮崎県)

五十殿利治、アメリカの大学美術館、筑波

大学芸術学美術史学会、2013年4月20日、筑波大学(茨城県)

後小路雅弘、新出資料紹介 九州大学所蔵の中村研一作品、第29回アジア近代美術研究会、2012年11月24日、福岡県立美術館(福岡県)

茂登山清文、視覚文化としてのアート・リソース、アート・リソース活用のためのシステム研究会、2011年11月12日、名古屋大学(愛知県)

[その他]

ホームページ等  
大学におけるアート・リソースの活用  
<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~satanaka/u/>

成果報告書「平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 大学における「アート・リソース」の活用に関する基礎的研究」

[論文]

- ・国際シンポジウム「大学とミュージアム」報告 後小路雅弘
- ・「組み込まれながらも、現れ出る」パトリック・フローレス(フィリピン大学バルガス美術館)
- ・「NUSミュージアム - その始まりと活動」アフマド・マシャディ(国立シンガポール大学 NUS 美術館)
- ・「九州大学総合研究博物館における大学資産の開示：“広義のアート・リソース”としての学術標本資料と大学施設の活用」三島美佐子
- ・「総合大学における美術展示 アート・ポリシー、「筑波アート」、アート・ストリート」五十殿利治・寺門臨太郎
- ・「パフォーマンス映像のデジタルアーカイブ化」村上史明
- ・「視覚文化としてのアート・リソース ヴィジュアルリテラシーの視点からシステムを構築するために」茂登山清文
- ・「作品鑑賞用携帯ガイドの現状と可能性」田中佐代子

[英語原文]

“Embedded But Emergent” Patrick D. Flores  
“NUS Museum: Inceptions, Prefiguring Practice” Afmad Mashadi

国際シンポジウム・公開研究会等  
(個別に本研究成果として報告書を発行したのものには\*を付す)  
国際シンポジウム「キャンパスのアート体験/イメージの空間体験」  
名古屋大学情報科学研究科、2014年1月12日  
講演:

フレデリック・ヴェリーFrédéric Verry  
(ストラスブール大学)  
国際シンポジウム「アート・リソースの活用と大学附属美術館の設置」\*  
筑波大学 5C 棟、2013 年 11 月 16 日  
基調報告：  
ピーター・ニスベット Peter Nisbet (ノース・カロライナ大学)  
橋爪節也(大阪大学)  
栗田秀法(名古屋大学)  
寺門臨太郎(筑波大学)  
国際シンポジウム「大学とミュージアム」  
九州大学創立五十周年記念講堂、2013 年 8 月 24 日  
パネリスト：  
パトリック・フローレス Patrick Flores (フィリピン大学バルガス美術館)  
アフマド・マシャディ Ahmad Mashadi(国立シンガポール大学 NUS 美術館)  
三島美佐子(九州大学)  
国際シンポジウム「アート・リソースと情報デザイン」\*  
名古屋大学情報科学研究科、2012 年 12 月 8 日  
基調講演：  
カール・シュトッカー Karl Stocker (ヨアネウム応用科学大学)  
招待講演：  
荒木博申(佐賀大学)  
加藤隆浩(南山大学)  
シンポジウム「ミュージアムとして大学キャンパス」  
筑波大学総合交流会館、2012 年 9 月 22 日  
基調報告：  
小林俊介(山形大学)  
清水則雄(広島大学)  
寺門臨太郎(筑波大学)  
研究会「アート・リソース活用のためのサイネージ研究会」\*  
名古屋大学情報科学研究科、2012 年 2 月 4 日  
基調講演：  
茂登山清文(名古屋大学)  
招待講演：  
遠藤潤一(広島国際学院大学)  
研究会「アート・リソース活用のためのシステム研究会」\*  
名古屋大学情報科学研究科、2011 年 11 月 12 日  
基調講演：  
茂登山清文(名古屋大学)  
田中佐代子(筑波大学)  
招待講演：  
伏見清香(広島国際学院大学)  
国際シンポジウム「ミュージアムとしての大学キャンパス」\*  
名古屋大学情報科学研究科、2011 年 10 月 22 日  
基調報告：  
チャールズ・ハクストハウゼン Charles

Haxthausen (ウィリアムズ・カレッジ)  
橋爪節也(大阪大学)  
渡部葉子(慶応義塾大学)

報告書、パンフレット等  
後小路雅弘、地霊の声に導かれて、九大学生 AQA プロジェクトによる現代美術展：わたしの知らない街の知らないところ、2013、23-24

寺門臨太郎、筑波大学芸術組織の取り組み事例、シンポジウム「ミュージアムとしての大学キャンパス」、2013、48-51

後小路雅弘、いまここに在る AQA プロジェクト、報告書：台湾/日本 いまここに在るということ、2012、32-34

アウトリーチ活動  
本研究に関する提言のうち、中小展示スペースを連鎖的に活用する「アートストリート」案については、筑波大学において具体化されており、昨年度からは芸術系社会貢献推進室より展覧会案内が発行されている。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

五十殿 利治 (OMUKA, Toshiharu)  
筑波大学・芸術系・教授  
研究者番号：60177300

### (2) 研究分担者

後小路 雅弘 (USHIROSHOJI, Masahiro)  
九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授  
研究者番号：50359931

茂登山 清文 (MOYOYAMA, Kiyofumi)  
名古屋大学・情報科学研究科・教授  
研究者番号：10200346

### (3) 連携研究者

三島 美佐子 (MISHIMA, Misako)  
九州大学・総合研究博物館・准教授  
研究者番号：30346770

寺門 臨太郎 (TERAKADO, Rintaro)  
筑波大学・芸術系・准教授  
研究者番号：80334845

田中 佐代子 (TANAKA, Sayoko)  
筑波大学・芸術系・准教授  
研究者番号：10326415

村上 史明 (MURAKAMI, Fumiaki)  
筑波大学・芸術系・助教  
研究者番号：30512884